

# 名事研=ユース

名古屋市立小中養護学校事務研究協議会  
<http://www.tcp-ip.or.jp/meijiken>

No. 126

平成15年6月1日

発行 名古屋市立小中養護学校

事務研究協議会 情報部

発行責任者 榊原 功 剛

5月23日、市教育センターにおいて平成15年度 定期総会が開かれ平成14年度の事業報告等の審議のあと、大橋新会長が承認されました。平成15年度事業計画、予算案等についても承認され新体制の下、本年度の名事研活動がスタートしました。

## 「改革」に魂を

会長 大橋 新太郎  
(桜丘中学校)



ここ数年にわたって、あらゆるところで「改革」が叫ばれ、進行しています。

教育改革、地方分権改革、行財政改革、税制改革、公務員制度改革、等々です。これらの「改革」は、以下の3点でそれまでの改革と違っているように思われます。一つは、深刻かつ長期の経済悪化の中で行われていること。二つ目は、これらの「改革」がすべて相互の関係を持って進められようとしていること。三つ目は、国庫負担制度だけでなく、学校事務職員制度そのものも「改革」の俎上にあがっていることです。

不景気の中での改革は、いやが応にも事業縮小や合理化にならざるを得ません。しかし、それが財政危機を乗り切るためだけの「改革」であるならば、何も変わりません。改革には、現状を分析した上での理想(アイデア)が必要であり、理想(アイデア)なき改革は、改革ではありません。理想(アイデア)は、改革への意志であり、原動力です。不景気や財政危機という厳しい現実の中でも、それに負けず、どれだけ理想(アイデア)を持ち続け、高く掲げられるかが、改革の要諦です。

進行しつつある「改革」はすべて、相互に関連を持っています。補助金・地方交付税・税源を统一的に改革するとして「三位一体の改革」と言われています。地方分権改革では、市町村合併と深く絡んでおり、行政改革も電子化と民間委託やPFI(民間活力)という形で展望され、それらは自治体改革の根幹をなしています。そうした相互の関連、改革の「総合性」とでも言うべきものを注意深く見ておく必要があります。

5年前に「学校事務」という言葉自体が中教審答申の中に初めて出てきてから、「学校事務」は改革の俎上に載った、といえます。しかし、それは主として、財政問題からの合理化課題としてであり、「理想(アイデア)なき改革」の一つとしてであります。残念なことです。しかし、私たちは、「変わらなければいい」と期待するのではなく、拱手傍観しているのではなく、そこに理想(アイデア)を取り戻し、鮮明にすることが大切です。学校事務改革に魂を吹き込むのです。

名古屋における学校事務の現状は、他の政令指定都市と比較しても決して見劣りするものではありません。いや、むしろ全国のトップレベルにあると言っていいでしょう。多額の学校予算と決裁権限、財務・旅費給与の相次ぐ電子化の中で、学校事務職員は自信を持っていいだけの職務執行を行ってきています。そうした誇りを持って、新たな学校事務改革に取り組み、改革に魂を吹き込むことが大切です。

## 平成15年度の名事研活動について

副会長 山本和彦  
(伊勢山中学校)

本市の財政状況は、長引く景気低迷と減税の影響で市民税・法人税の減収や地価等の下落による固定資産税の減収により、極めて厳しい状況にあります。本年度は「誇りと愛着の持てるまち・名古屋」の実現に向けて「行財政改革計画」「財政健全化計画」を強力に推進しています。予算編成に当たっては、経営感覚を発揮して自主的な予算編成をすすめるシステム改革の取り組みや、昨年度の行政評価の結果を踏まえた施策・事務事業の廃止や縮小を着実に進めています。

私たちの身近なところでは、本市の将来を担う子どもたちを新世紀にふさわしい人材に育てるため、学校・家庭・地域が一体となった教育改革に力点がかれ、小学校1年生での30人学級の体制整備・学習支援講師の配置・マイスクールプランの拡充・学力向上パイロットプランなどが実施されています。また、市民サービスの向上と行政の効率化をめざす電子市役所の実現に向けて、光ファイバー網の整備、文書管理・職員情報・職員認証システム、電子調達システムの開発などが進んでいます。

このように厳しい財政状況が続く、総務事務の電子化・情報化が進行していく中において、我々学校事務職員が「新しい学校づくり」を担っていくために、情報の共有化や新たな課題に対応できるマニュアルづくりを進めることが必要です。学校事務の高度化・効率化を進め、学校経営スタッフとして学校経営に参画し、確かな成果をあげていくことの必要性を強く感じています。そのためには、研修・研究を一人一人が主体的に行うとともに、お互いに協力・チェックしあう体制・システムの構築が重要と考えます。

本年度、本会としては、提示した課題（「学校経営スタッフ」・「意識改革」の研究）に取り組むとともに、以下の点を重視した活動を行います。

各区研究会の研究・研修活動との緊密な調整を図り、活動を支援します。  
学校事務の課題を整理し、全市的視野から標準化・効率化・高度化を図ります。  
日常的事務の研修とともに、必要な諸課題に関する研修会を開催します。  
学校事務職員制度及び学校事務のビジョンを研究し、共通認識を深化させます。  
市教委、校長会などの関係機関と調整し、事務の改善を図ります。

これらのことを踏まえて、平成16年1月には、昨年度までの研究大会の成果と反省を引き継ぎ、会員一人一人が積極的に参加できる形で第9回名古屋市小中養護学校事務職員研究大会を開催します。その他学校事務ハンドブックの更新、学校文書整理表等の作成などにより学校事務の効率化も進めます。さらに市教委・各関係団体等との連絡調整を密にし、情報を共有化する中で、連携を強化していきたいと考えます。これらの事業を事務局、研究部・研修部・総務部・情報部の4専門部、そして世話係会と協力しながら、精力的に進めていきたいと思えます。

今後、数年間に多くの会員が定年退職を迎え、世代交代が急激に進むことが予想されています。本会では、諸先輩方が今までに蓄積された知識や経験を無駄にすることなく、後輩に受け継ぐことが大切と考えます。財務会計システム・給与旅費システム等事務の電子化が進む中、学校に係る情報の共有化や学校事務のノウハウを蓄積しながら、学校事務職員の未来が広がる、そして改革の時代にふさわしい開かれた新しい学校事務をより積極的な姿勢で模索していきたいと思えます。

平成15年度の名事研活動が始まりました。  
事務局はじめ1局4部の部長より本年度の活動について抱負を述べてもらいました。

## 事務局

### 新体制での事務局運営

事務局長 松岡 美晴

新会長の厳しくとも力強い挨拶を受けて、新体制で名事研活動、事務局運営が始まります。今まで、当然のように考えられていたことでも、簡単にひっくり返される時代です。

急激な事務の電子化、聖域でなくなつた学校予算もしかり、会員の皆さんが、学校現場で日々仕事をされる中で、他校との事務職員とも協力して、より密接に情報交換を行って、仕事を進めなければ、乗越えることが難しい時代ではないでしょうか。

今、事務研究協議会の存在が問われるときだと思います。「新しい時代の学校づくり」の中で、それに遅れをとらない学校事務とは何か。事務局としては、市事務研活動がより活発になるために世話係会・各専門部の活動がスムーズに行えるように、運営していく必要があります。

「世話係会報告・月行事予定」などの定時的な活動を始めとして、ホームページの抜本的な改訂、重要通知文の推進、表簿委員と協力した学校文書の研究も継続します。

## 総務部

### より効率良い運営をめざして！

総務部長 高木 英之

今年度の総務部の活動は、例年どおり各種研究大会の案内及び集約、定期総会・研究大会の準備・運営を中心にを行います。しかし、来年度に向けて要覧の見直しや「名古屋の学校事務」の内容検討を行い、今後の視察資料として活用できるよう発行に向けて準備を進めています。これらの各活動においては、できるだけ簡素化をすすめ、中身を検討しながら、より効率よく運営することを目指していきたくと考えています。

名事研と会員相互の連携をより深めるため、現在の事業内容だけにとどまらず、新たな事業も模索中です。何かお知恵がありましたら総務部にぜひ、ご協力よろしく願いいたします。

## 研究部

### 「新しい学校事務の開拓」を話しあいたい！

研究部長 幸島 克昌

部員募集の状況から感じたことですが、会員にとって研究部が「研究発表に振り回される3K(きつい、苦しい、けむたい)の代表」というようなイメージを持たれていて、いわゆる「研究部離れ」という状況が進んでいるという印象を持ちました。研究協議会にあってこのようなことが起きているとすれば大変憂慮されるべきことだと思います。

さて、昨今の人員削減や事務のアウトソーシングなどのきびしい情勢に目をむけてみたとき、現在事務職員が学校で行っている事務の中には、5年後にも同じように存続しているのだろうかと思われるものがたくさんあることをとても心配しています。このような状況下において、今最も大切なことは、事務職員がこれまで培ってきた力やさらなる叡智を結集させて、本当にこれからの学校のためになる新しい学校事務を果敢に開拓していくことだと思います。

現在は部員がほとんど集まらない大変に苦しい状況ですが、この「新しい学校事務の開拓」をするための気軽な話し合いができる場を少しでも充実させていきたいと考えています。老若男女、忙しい人、時間のある人、会員の皆さんのほんの少しのご協力を集めて、話し合いの輪を広げて行きたいと思います。よろしく申し上げます。

## 情報部

### 「情報の共有」ってなんだろう？

情報部長 榊原 功剛

「情報の共有」というとなんだか難しく、とても抽象的な印象を受けられるのではないのでしょうか？あまり堅苦しく定義めいたものを考えるから、余計に捉えどころがなくなってしまいます。でも、情報部の活動の根底にはこの厄介な「情報の共有」がキーワードとしてあると思います。

では、どう考えましょうか？例えば、学校での仕事、名事研の活動をどれだけ職員・会員どうし、また組織外の人に対して見せられるのでしょうか。この「見せる」という単純なことから、チェック機能や事例等に学ぶ(研修)やアイデアの触発が得られます。

「見せる」ということは、その時点で「共有」の作用がスタートしています。これを効率よく行う技術(IT)や管理等はそれを使う側の意識・文化が作られなければ、魂が入りません。この「見せられる」仕事・活動を情報部内だけでなく、事務局や他の専門部との連携からはじめていければと思います。

## 研修部

会員の皆さんの参加をお待ちしています！

研修部長 服部 紋子

研修部というと、ちょっと大変そうな感じがしませんか？確かに1つの研修会を行うための労力や、精神的なプレッシャーには、ひいてしまうかも知れませんが、でも、研修会を企画運営するって、様々な角度で学校を見渡しながら行っていかなければならない、私たちの仕事と通じるところがあると思いませんか？

今年度も研修部では、15名の部員中のほとんどが20才代という、とってもフレッシュなメンバーで、今後の研修制度（体系）の見直しや、受講者側の身になって、会員の皆さんに、少しでも満足していただけるような研修会になるようにと、頭をひねっています。また、研修会を行って行く中で、自分たちも広い視野を持って、何事にもあたっていくことができるようにと、頑張っ活動をしています。

## 平成15年度役員等名簿

会長	大橋新太郎	(桜丘中)	全事研副会長	仙田 作吉	(滝ノ水中)
副会長	林 敦子	(鶴舞小)	全事研理事	日置 雄二	(北陵中)
副会長	山本 和彦	(伊勢山中)	県事研会長	西脇 忠彦	(守山西中)
副会長	中村 紀子	(相生小)	県事研副会長	桑山 賢治	(萩山中)
会計	岩田さゆみ	(前津中)	県事研情報企画部長	二村 忠浩	(千石小)
会計監査	原 朋子	(楠西小)	県事研会計	加島 道代	(宮中)
会計監査	小出 雅子	(川中小)	県事研監事	山下 勲	(田代小)
顧問	松井 修	(千早小)	世話係長	箕浦 磯二	(守山養護)
表簿委員	林 昭宏	(矢田中)	副世話係長	小出 美保	(名城小)
表簿委員	長松軒由美	(黄金中)			
事務局	事務局長 松岡 美晴	(鳴子台中)	事務局次長 宇佐美吉勝	(御劔小)	
	小出 美保	(名城小)	新村有加里	(篠原小)	宇野 稔 (鎌倉台中)
	関水 紀子	(成章小)	永井 智子	(大磯小)	井口 貴夫 (西味鏡小)
研究部	幸島 克昌	(香流中)	田口 行博	(八社小)	小川 雅裕 (黒石小)
	佐藤 建一	(滝川小)	中村 治	(名東小)	
研修部	服部 紋子	(豊臣小)	田中 裕子	(大曽根中)	山田 陽一 (西養護)
	山崎 文恵	(千種中)	中村 沙智	(豊治小)	坪井 宏之 (味鏡小)
	石原かおり	(井戸田小)	江上 愛子	(大坪小)	今井 勤 (豊正中)
	小池ひとみ	(富士見台小)	安達孝一郎	(田光中)	内川まり子 (長良中)
	毛利 和正	(徳重小)	佐藤 和広	(上社中)	藤原 崇光 (植田小)
総務部	高木 英之	(今池中)	宮田 恵子	(供米田中)	平岩 宗明 (大高小)
	服部裕実子	(中根小)	平松 敬子	(北山中)	内藤 洋子 (助光中)
	谷口 静子	(辻 小)	森上 恵子	(駒方中)	森川美穂子 (旗屋小)
	佐藤 治男	(荒子小)	浅見 仁美	(東志賀小)	都竹 千夏 (八熊小)
情報部	榊原 功剛	(日比野中)	上島 薫	(八事東小)	大河内威雄 (新栄小)
	佐藤 恵子	(幅下小)	渋谷 高司	(長根台小)	白根 勲 (高田小)
	福本 定治	(志段味西小)	小林 由佳	(南養護)	慶久 正喜 (植田中)
	安形知江子	(甘軒家小)	中林 誠永	(金城小)	( は部長 は副部長)